

Pain is inevitable Suffering is optional

現社でGO! NO36 冷戦と多極化 RANKB

満点の極意①米ソ対立のトピックスに気をつける

米ソを中心とする資本主義 VS 社会主義の睨み合い

▶西側 (資本主義 VS 東側 (社会主義))

▶進行 → ヤルタ会談 (1945年) → 「鉄のカーテン」演説 (1946年)

▶ベルリン封鎖 (1949年) 壁構築

▶政治 トルーマン=ドクトリン VS コミンフォルム

▶対ソ封じ込め政策 ▶東側共産党の結束

▶経済 マーシャル=プラン VS ソ → コメコン (経済相互援助会議)

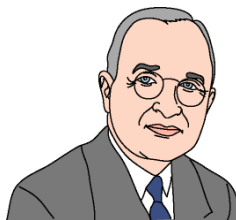
▶米 → 西欧への援助 ▶ソ → 東欧への援助

西側から東側への輸出は COCOM 対共産圏輸出統制委員会で制限された。★1999 追試

▶軍 NATO (北大西洋条約機構) VS ワルシャワ条約機構 ()

▶西側軍事同盟 ▶東側軍事同盟

▶ことごとく対立しかし、熱戦には至らず、冷戦である。



▶レーガンの軍拡路線 ▶親ソ政権支持で進軍

1985年 → ゴルバチョフ 就任で冷戦終了。★2003 追試

→ソ連 の大改革 ● ペレストロイカ (改革) ★2003 追試

● グラスノチ (情報公開)



1989年 東欧革命 …ソ連の改革が東欧諸国にも波及

ポーランド・チェコスロバキア・ハンガリーなど

▶各国首脳は選挙敗北・逮捕・処刑などされた。

●ベルリンの壁崩壊 → マルタ会談 で冷戦集結が宣言される。

▶ブッシュ米大統領・ゴルバチョフソ連書記長

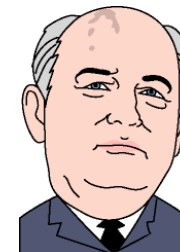
▶ベルリンの壁は東ドイツが西側へ逃げるのを防ぐために築いた。★1999 追試

1991年 ソ連邦解体 → ロシア、独立国家共同体 (CIS) へと移行

▶ウクライナ、ベラルーシ、カザフスタンなど

・コメコンと WTO (ワルシャワ条約機構) も解体

・バルト三国 (エストニア・ラトビア・リトアニア) は CIS に入らず 独立。



雪解け (= 緊張緩和) の動き

・ジュネーブ会議 (1954年) …東西首脳の初顔合わせ (米・英・仏・中・ソ)

・ジュネーブ四巨頭会談 (1955年) 再び東西首脳顔合わせ (米・英・仏・ソ)

・資本主義との平和共存路線 (1956年)

… フルシチョフ が提唱 → ケネディ も呼応。

▶スターリン批判を行う。



BUT

★ キューバ危機 (1962年) で米ソ核戦争の危機

→話し合いで解決

▶その後米ソ首脳間に ホットライン (直通電話) 設置。

→ 多極化 進行…キューバ危機前後より 米ソ二極優位の崩壊。

↓

▶西側 日本・ECの台頭/フランスの独自外交 (中国承認・NATO脱退)

▶東側 中ソ対立 (国境紛争に発展) / チェコ事件 (民主化弾圧)

▶途上国 非同盟主義 … 東西どちらにもつかず。

非同盟の中心 → ネルー (インド) ・ 周恩来 ・ チトー (ユーゴスラビア) など。

「平和五原則」発表…領土保全/内政不干涉/平和的共存など。

・ アジア=アフリカ 会議 (1955年) …インドネシアの バンドン に 29 か国が集結。

平和五原則を拡大した「平和十原則」採択。

・非同盟諸国首脳会議 (1961年～) …ユーゴにて。チトー大統領が主導。

冷戦の集結

1980年代 新冷戦 (米の 戦略防衛構想 (SDI) VS ソ連のアフガニスタン侵攻)

ポスト冷戦

・旧東欧諸国は すべて民主化 ・ 市場経済 へ移行。

・ ✕ 民族紛争 の多発・激化。

チェチェン紛争 (独立を目指すチェチェンのイスラム武装勢力とロシア) ★2004 本試

ユーゴスラビアの内紛 (クロアチア・セルビアなどの宗教をめぐる内紛) ★2004 本試

【2000年本試】

冷戦期におけるアメリカの他国への経済援助に関する記述として 適当でないもの を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① アメリカはマーシャル・プランを発表し、西ヨーロッパ諸国の経済復興を援助した。
- ② 第二次世界大戦後のアメリカによる西側諸国への経済援助に対抗して、ソ連は経済相互援助会議(コメコン)を設立した。
- ③ アメリカの経済援助をヨーロッパに受け入れるために、ヨーロッパ連合(EU)が設立された。
- ④ アメリカの経済援助は、ソ連や他の共産圏諸国に対する「封じ込め政策」の一環として行われた。

解答：③

【1999年本試】

冷戦時代に起こった事柄の記述として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 西側から東側への輸出は、対共産圏輸出統制委員会(COCOM)により設定された輸出禁制品目リストに従って、制限された。
- ② NATOが東側からの武力攻撃を阻むために築いたベルリンの壁は、長い間、東西対立の

Pain is inevitable Suffering is optional

悲劇を象徴する存在となった。

- ③ 朝鮮戦争の際に米ソ両軍の直接の戦闘が核戦争の危機を招くことが認識され、両国首脳は緊張緩和のためにホットラインを設けることに合意した。
- ④ 核兵器の増大を懸念したアメリカは、ソ連に対して戦略兵器を制限するための交渉を提案したが、ソ連側の拒否にあい、実現しないままに終わった。

解答：①

【2000年追試】

アジア・アフリカ会議で取り決められた事柄に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 米ソ両国の軍拡競争に対抗するため、まず東南アジアを非核地帯として設定し、それを徐々にアジア・アフリカ全域に拡大することが合意された。
- ② 東西の軍事的対立に巻き込まれないように、会議参加国の間で集団安全保障体制を確立することが合意された。
- ③ 領土と主権の尊重、平和共存、内政不干涉、相互不可侵、平等互惠、基本的人権の尊重などから成る平和十原則が採択された。
- ④ 大国主導のジュネーブ極東平和会議に対抗して、アジア・アフリカ諸国が中心となり、朝鮮戦争とインドシナ戦争の自主的な解決案を提唱した。

解答：③

【2004年追試 10】東西冷戦終結前後の時期(1980年代後半～1990年代前半)の旧ソ連・東欧諸国の動向に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 北大西洋条約機構(NATO)に対抗して1950年代に設立されたワルシャワ条約機構は、この時期に解散した。○
- ② ソ連のゴルバチョフ共産党書記長は、国内では積極的に民主化を推進したが、国外ではアフガニスタンへの軍事介入を開始した。
- ③ 東ドイツのワレサ委員長は、自主管理労組「連帯」を率いて積極的に民主化運動を展開し、ベルリンの壁の撤去を実現させた。
- ④ ソ連・東欧諸国は、経済相互援助会議(COMECON)を通じて経済協力を進め、市場経済への移行を速やかに実現した。

解答：①

【2003年追試 15】東欧革命に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 東欧諸国で、国営企業の民営化や公定価格の廃止といった市場経済化が図られたのは、ソ連のフルシチョフ首相が提唱した緊張緩和政策によるものである。ゴルバチョフ✕ゴルバチョフ✕
- ② ソ連のエリツィン大統領が推進したペレストロイカの影響を受けて、東欧諸国では一党独裁的な政治体制が崩壊した。
- ③ 東欧諸国は、それまでの社会主義政党を中心とする独裁的な政治体制を廃止し、民主化を進めてきたが、一方で民族意識が高まり、内戦や民族対立が生じた国もある。○
- ④ 東欧諸国は、政治体制についてはこれまでどおり社会主義としながらも、経済に市場原理を導入する社会主義市場経済体制を目指してきた。✕自由経済に移行した

解答：③

【2000年追試 15】非同盟・中立の在り方に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① アメリカとロシアがそれぞれ保有している核兵器の全面廃絶に踏み切ったため、非同盟諸国が核兵器を保有する意味が薄れた。
- ② 北大西洋条約機構(NATO)とワルシャワ条約機構が解散したことで、非同盟諸国が軍事的にまとまる意味が薄れた。✕
- ③ 国連で非同盟諸国が多数を占め、主張を容易に実現できるようになったため、非同盟諸国首脳会議の存続について再検討しなくならなくなった。
- ④ 東西両陣営の対立がなくなってしまったため、非同盟諸国の活動の前提が崩れ、何のための非同盟・中立かを再検討しなくならなくなった。○

解答：④

【2004本試】

次の地域紛争ア～エは、冷戦終結を契機として勃発したもの<A>と、第二次世界大戦後の1940年代後半に勃発したものとに分かれる。その組合せとして最も適当なものを、以下の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ア ユダヤ教徒が多数を占めるイスラエルと、パレスチナ及び周辺のアラブ諸国との間で勃発した中東紛争。B
- イ 独立を目指すチェチェンのイスラム武装勢力と、それを阻止しようとするロシアとの間で長期化していったチェチェン紛争。A
- ウ カトリック、セルビア正教、イスラム教という三つの宗教の信者が共存していた、旧ユーゴスラビア内のボスニア・ヘルツェゴビナで起こった紛争。A
- エ インドとパキスタンの国境付近で、ヒンドゥー教徒とイスラム教徒との間に生じた紛争。

B

- ① A ア, イ B ウ, エ ② A ア, ウ B イ, エ
- ③ A ア, エ B イ, ウ ④ A イ, ウ B ア, エ
- ⑤ A イ, エ B ア, ウ ⑥ A ウ, エ B ア, イ

解答：④

2014 国際の平和と安全

国際の平和と安全に関連して、人種・民族紛争に関する記述として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ①旧ユーゴスラビア領内では、チェチェン共和国において独立運動が起こり、武力対立が激化したことがある。
- ②ルワンダでは、部族間対立により、内戦化での集団殺害(ジェノサイド)が行われた。
- ③トルコやイラン、イラクなどの複数の国に居住しているクルド人は、民族の独立を目指して運動し、それにより紛争が生じたことがある。
- ④スーダンでは、南北の住民の間で対立が続いていたが、南部地域は、国家として独立し、国連の加盟が認められた。

答え：①